

2021年度学校評価【西南学院中学校・高等学校】

建学の精神および学校法人西南学院の使命

学校法人西南学院は、「西南よ、キリストに忠実なれ」の建学の精神に基づいて、真理の探究および優れた人格の形成に励み、地域社会および国際社会に奉仕する創造的な人格を育てることを使命とする。

建学の精神である「西南よ、キリストに忠実なれ」という言葉は、Lで始まる4つの英単語を用いて表され、本校では、チャペル講話をはじめ様々な教育活動においてこの4つのLを取り入れて具体的に実践している。

- ・L i f e（生命）：すべての人命を積極的に尊重すること
- ・L o v e（聖愛）：真の神を礼拝し、他者に奉仕すること
- ・L i g h t（光明）：知なきところに真理の光を掲げること
- ・L i b e r t y（自由）：責任ある自由をもって行動すること

学校法人西南学院のビジョン

- ①人間育成：キリスト教精神に基づいた隣人愛の実践
- ②教育研究：確かな教育力と新たな知と価値の創造
- ③国際感覚：異文化を受容し、行動できる国際性の修得
- ④地域貢献：進化する福岡とともに歩む学校としての自覚と協働
- ⑤経営基盤：永続的な変革と発展を支える柔軟な組織の構築

西南学院中学校・高等学校における教育の目標

- ①かけがえのない“L i f e（いのち）”を大切にする
- ②“L o v e（聖愛）”の実践を通して、隣人に仕える
- ③“L i g h t（世の光）”として、平和構築に貢献する
- ④真理を探究し、真の“L i b e r t y（自由）”を得る

西南学院中学校・高等学校における学校評価の進め方と2021年度の重点目標

I o T、A I、ビッグデータ等の先進技術を活用することで、モノやサービスを提供する新しい時代、“S o c i e t y 5. 0”を迎えようとしている。国際化や多様化が進み、情報の高度化が加速する社会にあつて、教育現場においても、国家、地域、年齢、性別、言語等を越えた、多様で普遍的な価値観に対応できる人材の育成が求められている。建学の精神を堅守しつつ、生徒一人ひとりの個性を伸ばし、平和を創りだす人材育成を継続するとともに、ポストコロナ時代における学びのニューノーマルを想定し、将来に向けた教育体制の点検と整備を進めることを目指す。

2021年度 西南学院中学校・高等学校 学校評価実施結果

ビジョン	中長期事業計画					2021年度事業計画案	担当部署	2021年度事業報告案			
	NO	ビジョン実現に向けた課題	通しNO	対象	アクションプラン	目標値		2021年度の具体的計画内容	2021年度の具体的実施内容	評価	評価の理由
人間育成 ①平和をつくりだす人間教育 ②隣人愛の理解と実践 ③奉仕の精神を持って社会を先導する人間の育成	1	「平和をつくりだす人間教育」「キリスト教精神に基づいた隣人愛の実践」の反映と浸透	1	中・高	チャペルやミッション・ウィークを活用した「いのち」を大切にする教育や「人権教育」の充実、また、「いじめ」防止に向けた教育プログラムの充実	人権・「同和」学習の継続的な実施と充実	新型コロナウイルス感染の影響が懸念されるが、オンライン活用などの方法で、聴覚特別支援学校との交流活動、ピース・メイキング・プログラムとインターナショナル・デイ・キャンプなどのプログラムの実施を目指す。人権・「同和」教育特設ホームルームでの講演、視聴覚教材による授業、「いじめ」アンケートの実施と振り返り、月ごとの主題をふまえたチャペル講話に関しては、確実に実施して継続的な啓発に努める。	宗教部	ZOOMを併用するスタイルではあったが、計画通りチャペルとミッションウィークを実施できた。後期ミッションウィークではコロナ危機の中にあるアフリカでのマスク等不足の状況を聞き、マスクを集めてアフリカへ送る活動に展開できたことは感謝であった。人権・「同和」の活動は、例年通り複数回の委員会を開催し、今年度の企画・運営のみならず、来年度の活動予定についても協議し、実施内容の検証と計画を行った。「いじめ」アンケートの実施結果については、学内会議においても情報を共有した。	B	ほとんどの計画を実施することができたが、コロナの影響によるとはいえ、ZOOMでの講話継続による生徒の参加度の低下を考慮したため。
			2	中・高	中学3年沖縄修学旅行や韓国への(からの)旅等の交流プログラムによる平和学習の充実	平和学習の継続と充実	「韓国への(からの)旅」および沖縄修学旅行実施の可否については、感染状況を見て慎重に判断する。昨年度に続いて韓国での研修が実施できない場合に備え、中村哲先生をテーマとした県内でのミニツアーや、次回「韓国からの旅」受入を視野に入れた長崎平和学習ツアー等の代替プログラムを検討し、状況を見て実施する。	宗教部	コロナ禍のため、「韓国の旅」は実施を見送ったが、ビデオメッセージの交換による交流を図った。また、中学3年生の沖縄修学旅行は感染防止策に留意して実施することができた。	B	韓国の教会との交流プログラムにおいては方法の変更をして継続に努めたが、生徒の参加度の低下は否めず、B評価にとどめた。
			3	中・高	生徒が主体的に企画・運営するチャペル企画やボランティア活動の充実	生徒が主体的に参加するチャペル活動や奉仕活動の実施と充実	毎週月曜日朝の中高合同での放送礼拝を、中高それぞれの宗教部、合唱部、放送部生徒諸君の協力を得て行い、ミッションウィークやクリスマス特別礼拝でも生徒とプログラムを分担する。感染症の影響で校外でのボランティア実施は難しいと思われるが、物品収集や募金は従来通り実施する。	宗教部	路上生活者や生活困窮者への支援物資受付と関係団体への寄託をはじめ、クリスマス献金や震災忘れない募金についても、多くの協力を得た。YWCA全国カンファレンス(オンライン開催)に3名が参加したほか、初めての試みとしてベシヤール会のボランティア会を行った。	A	計画になかった新たな試みも加えて実施することができたため。
			4	中・高	地域の教会や他のキリスト教主義学校との連携によるプログラムの充実	外部組織との連携強化によるチャペル等の充実	地域教会の牧師や他のキリスト教学校の先生方にチャペル講師や教員聖書研究会など協力を依頼する中での関係づくりに引き続き努める。本校のキリスト教教育の促進に資する内容の写真パネル展等の企画についても検討・実施に努める。本校保護者を対象としたバイブルクラス実施の機会確保にも努め、キリスト教活動への理解を求めるとともに連携を広める機会とする。	宗教部	チャペル講話においては多くの牧師を迎えることができた。カルト問題対策において他大学・キリスト教学校とのネットワークに参加し、情報交換に努めた。新型コロナウイルスへの感染状況を考慮して施設訪問ボランティア、街頭募金、コミュニティクリスマスは実施を見送らざるを得なかったが、生徒クリスマス献金および母の会によるクリスマス献金の送呈先に福岡地区の団体、コロナ遺児支援を新規に加えた。	A	計画の実施に、内外から多くの協力を得て、制約受ける中でも満足のいく活動を展開することができたため。

2021年度 西南学院中学校・高等学校 学校評価実施結果

ビジョン	中長期事業計画					2021年度事業計画案	担当部署	2021年度事業報告案			
	NO	ビジョン実現に向けた課題	通しNO	対象	アクションプラン	目標値		2021年度の具体的計画内容	2021年度の具体的実施内容	評価	評価の理由
人間育成 ①平和をつくりだす人間教育 ②隣人愛の理解と実践 ③奉仕の精神を持って社会を先導する人間の育成	2	社会の担い手となるサーバントリーダー育成プログラムの充実	5	中・高	生徒に対するサーバントリーダー育成のための教育プログラムの充実	サーバントリーダー育成プログラムの創設・展開	「クリスマス募金」や「震災忘れない募金」の活動を通じて、生徒が他者に仕え、配慮しながら行動することの実践機会を設ける。	宗教部	今年度はウクライナの人々への緊急支援をメインに、「震災忘れない募金」を校内で実施した。街頭募金を見送らざるを得ない状況の中、規模は小さくなったが、街頭募金活動を継続することができた。	A	制約受ける中でも満足いく活動を展開することができたため。
			6	中・高	モラル・ルールに対する意識の向上	社会ルールの遵守に向けた指導徹底および意識啓発プログラムの充実	過年度から継続して①登校時におけるマナーと自転車交通ルールの指導・徹底、②携帯電話・スマホやSNS利用を中心としたマナー指導・啓発活動の実施、さらに③校則に関する運用方法の検討課題について取り組む。家庭でのインターネット利用時間の増加や学校でのICT機器を使った授業の必要性など、生徒を取り巻く情報環境はますます変化している。社会の現状に合わせてメディアを利用する生徒の意識向上や学校でのルール見直しについて、引き続き検討する。	生徒指導部	【中学校】 昨年度から引き続き①登下校におけるマナーと自転車交通ルールの指導②インターネットの利用に関するマナー指導、啓発活動の実施③校則についての運用のあり方について等を中心に生徒と共に取り組んだ。 【高等学校】 生徒会を中心に地下鉄乗車マナーアップキャンペーン活動に協力し、宗教部主催で被災地支援活動を継続した。地域からの意見や要望を収集するための方策としては、百道浜交通安全協議会に所属参加して情報を収集している。	A	【中学校】 全ての課題において、生徒が主体となり積極的に問題として捉え改善策を話し合う機会を多く持った。また、目まぐるしく変わる社会状況を敏感に感じながら、学校のルールのあり方を考えることにより、社会と繋がるきっかけとなった。今後もさまざまな問題を学校の中だけで考えるのではなく、地域社会と問題を共有しながら生徒指導部として活動したい。 【高等学校】 登校指導については、随時3～5名の教員が立門するようにローテーションを組んで取り組んだ。その際、自転車や公共の交通機関を利用する生徒に対するマナーや交通ルールの遵守を呼びかけた。しかし、地下鉄乗車マナーアップキャンペーンについては、コロナ禍ということもあり実施することができなかった。また、携帯電話の使用方法に関しては、1年生で携帯マナー講習会、2年生でSNS講習会を開き、メディアを利用する生徒の意識向上を図った。

2021年度 西南学院中学校・高等学校 学校評価実施結果

ビジョン	中長期事業計画					2021年度事業計画案	担当部署	2021年度事業報告案			
	NO	ビジョン実現に向けた課題	通しNO	対象	アクションプラン	目標値		2021年度の具体的計画内容	2021年度の具体的実施内容	評価	評価の理由
教育研究 ①一人ひとりの個性を引き出す保育・教育力の充実 ②総合的な「知」を志向した教育機会の提供 ③社会を先導し、社会へ貢献することを目指した研究機能の充実・強化	1	入試制度・生徒募集	1	中・高	中長期的展望に立った学校の将来計画の検討	社会情勢や動向に基づく適正な学校運営の実現	学院本部の財務担当者と協議し、持続可能な学校運営を行うための適正な学則定員の見直しと、入学者数確保に向けての情報収集と具体的な検討に着手する。	総務部	中学校・高等学校と学院全体の財政状況について教職員に説明し、財務上の課題を共有するとともに、2022年度から本校の中長期財政計画を策定し、学校規模の適正化についての検討にも着手する予定である。引き続き関連情報の収集に取り組んでいる。	A	全体職員会議において、本部の財務担当者から過去・現在・将来に渡る中高の財政に関する説明会を実施し、現状の課題を認識することができた。
			2	中・高	入試制度(中学・専願・前期・帰国生等の入試制度、入試科目、出題形式、入試日程等)の検討	教育の充実に向けた入試制度の確立と実施	中学入試、高校専願入試、高校前期入試、帰国生入試とともに、近年の入試結果を総合的に検証する。また、従来の課題や将来的な動向を踏まえつつ、今後の入試制度全般について検討する。	総務部	各入試ともに制度的にも確立してきており、実際の運用も安定感を増している。帰国生入試においてもスムーズに実施されている。外部検定試験の活用や中学の傾斜配点などの検討事項について更に進めていく必要がある。中学校においては三年次転入試験も実施した。	B	入試全般としては、スケジュール面などは安定して実施できている。少しずつ新課程に対応するような内容の出題も増えてきており、この傾向は更に進むものとみられる。帰国生入試の基準のばらつきも徐々になくなり安定したものになりつつある。従来からの入試制度についても課題がはっきりしつつある。
			3	高のみ	西南学院大学推薦入試制度の見直しと検討	高大接続の充実を含む西南学院大学推薦入試の実施	本学院が建学の精神を守り、同じキリスト教理念のもとで生徒・学生の継続的な一貫教育の充実を図るため、更なる高大連携を進めたい。そのために、西南学院大学への推薦入試制度における学部・学科ごとの適正な推薦人数や出願条件について検討し、大学との協議を進めたい。この入試制度がお互いにとってより有効な制度となる方向性を模索する。また、合格発表後の学習指導のあり方を再検討し、西南学院大学への入学前教育をさらに充実させる。	進路指導部	推薦入試合格後の学習指導のあり方については、クラス担任からの指導を強化し、大学から与えられる課題の進捗状況の確認などを徹底した。また、コロナ禍で充実した大学生活を送れず、他大学への進路変更を考える卒業生に対して、旧担任と相談する機会を設けるなど、大学入学後の卒業生の支援も行う体制を整えた。次年度以降は、大学との協議の機会をもっと増やしていきたい。	B	大学入試課との連携は、以前より密にできているが、高校側と大学側双方が抱える課題についてもっと協議する機会が増やす必要がある。情報共有を今以上に充実させることで協力体制を強化していきたい。
	2	カリキュラム・教科教育	4	中・高	中高一貫教育体制の検証と改善	中高一貫教育の特色を活かした学校運営の確立	今年度は、中高一貫教育体制の検証と改善について、具体的な計画はない。	教務部	2021年度は、今後の一貫教育のあり方について検討・策定していない。	C	検討・策定していないため。
			5	中・高	教科教育の充実	生徒の学力向上と幅広い進路保障の確立	中学においては、新学習指導要領に対応して編成されたカリキュラムを計画的に実践する。高校においては、2022年度からの新学習指導要領への実施に向け、各教科・科目のシラバスを全面的に改定し、評価方法や評価基準、公開方法の見直しも検討する。	教務部	中学においては2020年度までに新学習指導要領に対応したカリキュラムの検討と編成が完了し、2021年度は予定どおり新学習指導要領に対応した教育を実施できた。高校においては2022年度入学生向けのシラバス策定に向けて各教科において検討したが、新学習指導要領に対応した教務規定の見直しについては検討が不十分である。	B	教務規定の見直しについては検討が不十分であるため。

2021年度 西南学院中学校・高等学校 学校評価実施結果

ビジョン	中長期事業計画					2021年度事業計画案	担当部署	2021年度事業報告案			
	NO	ビジョン実現に向けた課題	通しNO	対象	アクションプラン	目標値		2021年度の具体的計画内容	2021年度の具体的実施内容	評価	評価の理由
教育研究 ①一人ひとりの個性を引き出す保育・教育力の充実 ②総合的な「知」を志向した教育機会の提供 ③社会を先導し、社会へ貢献することを目指した研究機能の充実・強化	2	カリキュラム・教科教育	6	中・高	ICT教育の検討	ICT教育システムの積極的な活用による生徒の主体的学習の促進	新中学1年・新高校1年(一般生)・新高校2年の全生徒、新任者や非常勤講師を含む全教員にタブレットを配付する。また、デジタル教科書や各種ラーニングソフト教材を導入し、生徒の主体的な学習推進と教員の校務改善を図るとともに、全生徒・教員へのタブレット導入完了に伴うWi-Fi環境の整備について、多目的ホールと自習室を優先しての整備に着手する。	ICT教育委員会	予定通りタブレットを配付できた。デジタル教材の利活用については、教科によって先行してデジタル教材を導入した。Wi-Fi環境整備については、アトリウム改装計画の見直しにより一部修正はあったが、計画を進めることができた。機器入替に関しても、機種選定や情報環境整備計画および予算措置について、ほぼ計画通り進んでいる。生徒の出欠確認や教員の出勤管理のみならず、保護者への連絡や生徒管理、帳票管理、生徒・教員の健康管理、支援が必要な生徒の把握などを目的とした校務支援システムの運用を開始した。	A	端末整備や環境整備計画を予定通りに行うことができた。校務支援システムの運用を開始したが、帳票管理や成績関連についてシステムの移行に課題が残っている。
							中学・高校とともに、現在行っている各種進路説明会や大学説明会等を継続的に実施し、その効果を検証するとともに、キャリア教育のさらなる充実に向けた新たな企画の検討を行う。		2021年度もコロナ禍が続き、計画していたいくつかの大学説明会を中止せざるを得なかったが、規模の縮小や時間の短縮などの工夫をしながら多くの説明会を実施できた。新たな企画として、医療系学部への進学希望者のための説明会を実施できた。中学では新たな企画の立案・実施にいらなかったことを踏まえて評価した。		
	3	進路指導	7	中・高	キャリア教育(進路指導)体制および手法の見直しと検討	生徒の特性や希望に即したキャリア教育指導体制の確立	中学・高校とともに、現在行っている各種進路説明会や大学説明会等を継続的に実施し、その効果を検証するとともに、キャリア教育のさらなる充実に向けた新たな企画の検討を行う。	進路指導部	2021年度もコロナ禍が続き、計画していたいくつかの大学説明会を中止せざるを得なかったが、規模の縮小や時間の短縮などの工夫をしながら多くの説明会を実施できた。新たな企画として、医療系学部への進学希望者のための説明会を実施できた。中学では新たな企画の立案・実施にいらなかったことを踏まえて評価した。	B	準備していた大学説明会を中止せざるを得なかった部分があったこと、高校では新たな取り組みとして医療系学部への進学希望者のための説明会を実施できたが、中学では新たな企画の立案・実施にいらなかったことを踏まえて評価した。
					高大接続および連携の課題に対応した進路指導の充実	高大接続および連携を活用した進路指導の充実	各大学が実施している高大連携プログラムを調査・検証し、今後の本校の進路指導における活用のあり方について検討する。また、西南学院大学との連携を通じて、中学生や高校生の主体的な進路選択を促す取り組みを拡充する。	進路指導部	高大接続・高大連携を意識した取り組みとして、高2対象の「進路講演会」や、高2・3を対象とした「西南学院大学説明会」は2021年度も実施できた。生徒に対して大学進学について考える機会をもっと増やしていきたい。	B	コロナ禍ではあったが、予定していた高2対象の「進路講演会」や「西南学院大学説明会」は実施できた。一方で、生徒が大学進学を考えることのできるような企画を増やすことができていない点を踏まえて評価した。
					多様化する進路希望者に対する支援制度の確立	進路保障の拡充に向けた制度の確立	大学入学共通テスト導入に伴う受験動向についての情報収集と分析を行い、生徒の特性や希望に応じた進路指導や支援の強化に取り組む。また、英語外部検定試験の導入に伴う指導方針についても検討する。さらに、新学習指導要領で示されている学力の三要素を意識し、学校推薦型選抜や総合型選抜で求められる課題探求能力を中高6年間でどう培うか、議論を進めたい。	進路指導部	大学入学共通テスト導入2年目となったが、大学入試に関する各種情報を高3のクラス担任へ積極的に提供した。また、他学年の教員も動員して生徒一人ひとりの希望に応じた面接・小論文指導などを行った。	B	近年の入試改革により、大学入試のあり方が多様化する中で、特に総合型選抜や学校推薦型選抜への支援体制を強化していく必要がある。今後も、面接指導・小論文指導などを強化していきたい。

2021年度 西南学院中学校・高等学校 学校評価実施結果

ビジョン	中長期事業計画					2021年度事業計画案		2021年度事業報告案			
	NO	ビジョン実現に向けた課題	通しNO	対象	アクションプラン	目標値	2021年度の具体的計画内容	担当部署	2021年度の具体的実施内容	評価	評価の理由
教育研究 ①一人ひとりの個性を引き出す保育・教育力の充実 ②総合的な「知」を志向した教育機会の提供 ③社会を先導し、社会へ貢献することを目指した研究機能の充実・強化	4	特別支援	10	中・高	特別支援体制の整備と充実	生徒の状況に応じた教育支援の確立	支援を必要とする生徒の情報を共有し、様々な支援体制の充実に向けた校内研修を行い、関係機関との連携強化に努める。	総務部	教育支援委員会を中心に情報共有を図っており、ICT機器を有効に活用して着実に進展している。学年末に公認心理士を招いて、不登校を中心とした困難さを抱える子どもへの心理的援助に関する教員研修会を実施することもできた。定期考査への配慮面でも、定着してきている。	B	情報共有の在り方も定着しつつある。合理的配慮の内容は個別の教育支援計画に明記し、個別の指導計画を活用することが望ましいとされており、必要に応じて合理的配慮の内容を見直していくことが適当であるとされているが、教育支援委員会を中心に以前と比較しても濃やかな対応がなされるようになった。
	5	総合的な「知」の探究	11	中・高	外部講師による講演会やチャペル講話の充実・強化	幅広い知識の修得による知的好奇心の醸成と精神的成長の促進	生活困窮者支援や平和構築などの社会的問題に取り組む実践者を講師に招き、歴史的・文化的背景を理解しながらグローバルな視点をもって課題解決に向かうための知識の習得と姿勢を養う機会を設ける。	宗教部	世界各地での飢餓問題、貧困地域の開発、大規模災害支援に長年取り組んでいるハンガーゼロをはじめ、障害者福祉の働き人、東日本大震災の体験証言等多彩な講師を迎えた。保護者バイブルクラスについても母の会の協力を得て2回実施した。	A	計画の実施に、内外から多くの協力を得て、制約受ける中でも満足いく活動を展開することができたため。
			12	中・高	現図書館の利用促進と情報・学習資料センターの機能をもつ新図書館構想の実現	生徒が自主的に利用しやすい環境の確立	現東側アトリウム施設の改修について、業者選定を行い、今年度着工を目指す。事務室においては、学院財務部（施設課・経理課）と連携を図り、それに伴う資金調達計画を策定し、計画実現のための作業を遂行する。	総務部	現アトリウム東エリアの活用や諸施設の改修計画を具体的に立案し、会議体で提出できた。資金調達計画についても財務部との連携を図ることができたが、資金計画の中で他の計画との兼ね合いもあり、実施については先送りすることとなった。	B	実施は先送りとなったが、具体的な活用の検討や改修計画の立案、見積りの段階まで進めることができたことは評価に値する。
	6	教員の資質向上	13	中・高	研究授業の積極的展開	教員のスキルアップに向けた研究授業制度の確立	各教科の研究授業や研修発表の実施を促して教科教育のさらなる充実を図るとともに、自主的な研究発表や勉強会への参加に向けた支援を行う。	教務部	ICT有志研修会を2回実施したものの、参加者が少なかったため、十分な研修会とはならなかった。また、各教科でのICTに関する研究授業や研修発表が十分に実施できず、自主的な活動についても支援ができなかった。	B	十分に実施できなかったため。
			14	中・高	研修制度の見直しと検討	教員研修制度によるスキルアップの促進	現行の研修実施状況を検証し、改善に向けた方策や、勤続20年目や30年目の学び直しをも見据えた新たな研修制度の創設を検討する。	総務部	コロナ禍の影響が大きく、現行の研修の実施も十分に行えなかったため、新たな研修制度の創設についても検討できなかった。	C	昨年と比較すると国内研修は一部実施できているが、研修の見直しまでは行えなかった。
	7	教育施設の整備	15	中・高	実験室や視聴覚教室、課外活動施設、職員室等の校内施設・設備の充実	設備の充実による教育内容および効果の向上	よりよい学習環境の整備に向け、情報・学習資料センターを中心に東側アトリウム施設の具体的な改修計画の策定、会議室の利用、人工芝の敷設を中心としたグラウンド施設の整備、校内諸施設の利活用について関係者から意見・要望を聴取するとともに、一連の整備計画と資金調達計画を策定し、校内での審議を行う。	総務部 事務室	情報・学習資料センターを中心に東側アトリウム施設の具体的な改修計画の策定を行ったが財政上の理由により、残念ながら次年度での実施は見送りとなった。人工芝の敷設を見据えたグラウンド施設については、委員会を設けて検討し、資金調達の大まかな計画についても検討した。	A	情報・学習資料センターの改修については、具体的な答申が出され、実施の可否についても財政上の根拠を検討することができた。グラウンドの人工芝化については、委員会を開催すると同時に専門業者の説明会を開催して、メリット、デメリットについての協議を深めることができた。

2021年度 西南学院中学校・高等学校 学校評価実施結果

ビジョン	中長期事業計画					2021年度事業計画案	担当部署	2021年度事業報告案			
	NO	ビジョン実現に向けた課題	通しNO	対象	アクションプラン	目標値		2021年度の具体的計画内容	2021年度の具体的実施内容	評価	評価の理由
国際感覚 ①グローバル社会の担い手の育成 ②異文化理解と外国語教育の充実 ③キャンパスの国際化の推進	1	グローバル社会の担い手の育成	1	中・高	多様性を認め合う共生社会の形成に向けた国際交流プログラム(海外研修・留学生受入を含む)の充実	国際交流の積極的な展開によるグローバル教育の充実	留学制度の充実のため、高校訪豪研修、ピース・メイキング・プログラム、インターナショナル・デイ・キャンプの実施と検証を継続し、教務規定の見直し、進級留学制度の改定、ターム留学制度の制定を進める。また、中学海外研修プログラムおよびターム留学制度に関する検討を行う。海外からの留学生受入に際してのルールを策定し、校内制度としての明文化を検討する。	総務部 教務部	高校訪豪研修は実施できなかったが、ピース・メイキング・プログラム、インターナショナル・デイ・キャンプについては予定通り実施できた。SEINAN ENGLISH CAMP 2021、SEINAN模擬国連を企画実施した。ターム留学制度は2021年度から発足し、少数であるが短期の語学留学を経験した生徒もいる。また、留学を扱う団体・企業に協力を仰ぎ留学個別相談会を実施できた。中学海外研修プログラムについては検討できていない。新型コロナウイルス感染対策のため、海外からの留学生の受け入れや、ルールの策定にも着手できなかった。	B	感染不安の中、できる限りの対策をして、プログラムの内容に工夫を凝らし、ピース・メイキング・プログラム、インターナショナル・デイ・キャンプを実施できたことは評価に値する。また2学期末には留学個別相談会を実施し多くの来場者を得たことも評価できる。
					帰国生への対応(募集拡大、教学支援の検討)	帰国生受入制度の確立	帰国生徒の実態の把握や受入体制について、近年の帰国生徒入試結果や入学後の状況等を総合的に検証し、多様な生徒の募集を目的とした受験資格や条件緩和のあり方について検討する。また、本校への入学や転入を希望する帰国生徒についての法制度についての調査を行う。	総務部 教務部	留学生不在の状況であるため、留学生と日本人学生の混成クラスについての検討ができていない。1年生の段階では志望大学が決まっておらず、2・3年生のカリキュラムも多様であるため、コロナ禍による留学生の不在やカリキュラムの多様性などの課題を共有している。帰国生徒の対応についても具体的な検証や検討を行うことができなかった。	C	中学入試、専願入試においては、安定して実施できているが、いろいろなケースが出てきており、検討すべき事が多くなるため、海外からの点入試の問い合わせも多くあるが、特の高校では教育課程が大きく異なり、なかなか引き受ける方向には向かわなかった。
					卒業後の海外大学進学への支援体制の構築	海外進学支援体制の確立	海外進学を希望する生徒の現状やニーズを把握するとともに、海外進学についての情報提供のあり方について、専門業者との連携も視野に入れながら引き続き検討する。また、進路指導部にかかる専門分野の係を設け、国際交流委員会と連携しながら上記の検討を進める。	進路指導部	2021年度は進路指導部内に初めて「海外進学サポート係」を設置し、増えつつある海外の大学への進学希望者に対してどのようなサポートが可能か検討を始めた。生徒のニーズをしっかりと把握し、それを元に、国際交流委員会との協議の場を設けたい。	B	海外進学サポート係を設置したが、まだ支援体制は未だ不十分である。ターム留学制度が整い、海外経験を積む生徒が少しずつ増えている中で、今後海外大学進学の上でどのようなサポートが可能かをしっかりと議論し、実行に移していかなければならない。
	2	英語教育のさらなる強化と拡充	4	中・高	全生徒に対する英語力の全般的な向上	英語を活用したコミュニケーション能力の向上	オンライン英会話授業の運用について、英語科を中心に検証し、必要に応じて運用計画の見直しを行う。また、生徒のさらなる語学力向上に反映させるための方策についても検討を継続する。	教務部	オンライン英会話は実施しているが、オンライン英会話の教育効果については検証が進んでいない。運用計画の見直しや、さらなる語学力向上のための方策についての検討も不十分である。	B	検証・検討が不十分であるため。

2021年度 西南学院中学校・高等学校 学校評価実施結果

ビジョン	中長期事業計画					2021年度事業計画案		2021年度事業報告案			
	NO	ビジョン実現に向けた課題	通しNO	対象	アクションプラン	目標値	2021年度の具体的計画内容	担当部署	2021年度の具体的実施内容	評価	評価の理由
国際感覚 ①グローバル社会の担い手の育成 ②異文化理解と外国語教育の充実 ③キャンパスの国際化の推進	2	英語教育のさらなる強化と拡充	5	中・高	GTEC等の英語力の学外指標の導入	大学入試対策に合わせた英語力の向上	英語外部検定試験(GTEC)を計画的に実施し、実施後の検証を行うとともに、英語4技能をさらに伸ばすための新しい取り組みについて議論する。また、今後のGTEC以外の英語外部検定試験の活用についても情報収集と分析を継続する。	教務部 進路指導部	GTECについては、年間計画に従って全て計画通りに実施できた。各学年で取得したGTECのスコアを一覧表にまとめて学級担任に提供し、大学入試の際にGTECを更に活用できるよう配慮した。入試制度についての情報収集と分析も継続しているが、GTEC以外の検定試験の検討には至らなかった。	B	英語外部検定試験の対応については、現在、学内で各学年1回ずつGTECを実施している。今後もこれを継続しながら、本校生徒の英語力向上を目指す。また、GTEC以外の検定試験の検討には至らなかったが、その他の検定試験について、生徒に奨められるものがないか今後検討していく。
	1	地域における貢献活動	1	中・高	ボランティア活動やイベント等の地域貢献活動・地域福祉活動の充実	地域貢献活動の充実に向けた組織と制度の整備	「震災忘れない募金」等の街頭募金、社会福祉施設訪問、キリスト教学校フェア参加、地域住民対象のコミュニティクリスマス、生徒会による地下鉄乗車マナーアップキャンペーン活動への協力を継続する。さらには本校からの出前授業やPTA学校訪問の受入等を通じて、地域住民等からの意見や要望を収集するための方策を検討する。	宗教部 総務部 生徒指導部	ウクライナの人々に向けた緊急支援募金を校内で実施した。街頭募金を見送らざるを得ない状況の中、規模は小さくなったが、募金活動を継続できた。近隣小学校への訪問を実施し、新型コロナウイルス感染症対策の影響で活動制限はあったが、感染対策を施して体験学習、出前授業(オンライン開催を含む)、PTA学校訪問を実施した。地域住民の意見等の収集については、十分とはいえない状況である。	A	計画の実施に、内外から多くの協力を得、制約を受ける中でも満足いく活動を展開することができた。
2	地域住民との連携	3	中・高	百道浜自治協議会との連携強化	連携のための組織および制度整備による地域との関係性の向上	地域との連携に向け、自治協議会関係者との情報交換や懇談、地域住民からの意見や要望を収集するための方策を検討する。	総務部	青少年育成協議会や交通安全推進委員会に出席し、地域の方々から見た本校についての評価や、本校への要望を収集できた。協議会や委員会への積極的な参加を通じて、地域との良い関係性が構築できている。	A	百道浜交通安全推進委員会ならびに百道浜校区死せ幼青少年育成推進協議会に、出席し、十分な情報交換を行うことができた。	

2021年度 西南学院中学校・高等学校 学校評価実施結果

ビジョン	中長期事業計画					2021年度事業計画案		2021年度事業報告案			
	NO	ビジョン実現に向けた課題	通しNO	対象	アクションプラン	目標値	2021年度の具体的計画内容	担当部署	2021年度の具体的実施内容	評価	評価の理由
経営基盤 ①経営体制の充実・強化 ②健全な財務基盤の確立 ③社会的責任の遂行	1	広報活動	1	中・高	中学校・高等学校全体のブランディング・広報戦略の充実・強化	学校および生徒の取り組みの積極的な社会発信による理解度・認知度の向上	2022年度に予定している学校紹介動画のリニューアル計画を策定し、必要な予算措置を講じるとともに、作成準備に着手する。また、2023年度に予定している学校案内冊子の全面リニューアル計画を策定する。	広報部	学校紹介イメージ動画が完成し、公式YouTubeチャンネルに掲載した。その他に計画していた動画については、新型コロナウイルスの影響により撮影ができず完成にはいたらなかった。生徒会や学校内部での動画作成を充実させることにより、ある程度補うことができた。計画通りには進まなかったが、広報活動への効果は確認できた。学校案内パンフレットについては紙面の再構成をおこなった。	B	学校案内動画については、新型コロナウイルスの影響で予定通りに進まず、一部未達成のため。
	2	運営管理体制の強化	2	中・高	危機管理体制(災害対応・施設強化を含む)の充実・強化	危機管理体制および設備・機器の整備による生徒・教職員に対する安全管理の向上	各種委員会や会議体が抱える問題点や課題、懸案事項を抽出・分析し、特に防災マニュアルの更新や防災備蓄計画の充実・強化を図る。感染症への対策については外部機関と連携を図りつつ問題の解決に取り組む。	総務部 事務室	前年度に引き続き、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、本校でも特に1月以降に陽性者の確認が相次いだ。その際の対応マニュアルを感染状況に沿って見直しながら対応できた。防災備蓄物の確認はなされているが、計画そのものの検討には至っていない。教員間の緊急連絡網については、ICT端末と教育支援ソフトの導入により実現できている。	B	コロナ感染防止に関しては執行部を中心に保健室、事務室、産業医、保健師等と連携を図り、組織的かつ迅速な対応をとることができた。防災マニュアルの更新は着手できなかった。
			3	中・高	校友行政の強化・同窓会との協力関係強化	関係強化のための組織と制度の整備	学校から同窓生への情報提供のあり方について、校長、副校長、教頭、事務長が中心となって、同窓会役員との協議の場を設ける。	総務部 事務室	新型コロナウイルス感染防止対策の影響を受け、同窓会関係者との会合を本校のチャペルで数回実施した際に、総会・懇親会の場所や方法についての意見交換を行うことができた。同窓会役員との協議においては、西南学院同窓会連合会三専務理事会を通じての情報提供を行った。	A	昨年に引き続き、対面での高校同窓会総会が実施できず、同窓会員と教員との交流の機会が設けられなかったが、連携と協力体制が希薄にならないように、同窓会本部・役員と密に連絡をとり、情報交換を行った。
			4	中・高	後援会との協力関係強化(情報提供のさらなる充実、専用ホームページの検討)	関係強化のための組織と制度の整備	学校から保護者への情報提供のあり方について、校長、副校長、教頭、事務長が中心となって、後援会役員との協議の場を設ける。	総務部 事務室	新型コロナウイルス感染防止対策の影響により、年度当初に予定していた後援会との会合の一部が実施できなかった。学校施設設備の整備については、人工芝や情報・学習資料センター、Wi-Fi環境の整備計画について、中長期計画をふまえた話し合いができた。学校から保護者への情報提供のあり方についての協議はできなかったが、学校施設設備に関する意見交換の機会を設けた。	B	情報提供の在り方の協議はできなかったが、年度当初から導入したBLENDを用いた迅速な提供の在り方が定着した。学校の施設整備計画について後援会と話し合いの場を設け、今後協力を仰ぎながら進めていくための基礎を固めることができた。
	3	教職員に対する健康管理の充実	5	中・高	定期健康診断に基づく保健指導の充実、メンタルヘルス等の対応強化	労働安全衛生法に基づく健康管理制度の確立と運用	教員の出退勤管理や健康状態の把握を含む校務支援のパッケージシステムを導入し、現場での運用を開始するとともに、システム導入に伴う効果測定と校務処理手順の見直しを行う。	総務部	教員就業規則の見直しに着手するとともに、長年の懸案事項であった学院との三六協定を締結する運びとなった。教員の出退勤や健康状態を把握するパッケージシステムの運用が始まり、実情の把握のツールの整備が進んだ。	B	パッケージシステムでの出退勤管理や健康状態の把握についての役割分担が課題として残った。